

# 令和4年度 福島県視覚障がい者福祉協会 事業報告

## Ⅰ 事業報告

### (1) 視覚障がい者の自立及び社会参加支援のための情報の提供に関する事業

○福島県点字図書館（以下、図書館と略す）の運営を通して、広く利用者の意見を取り入れて点訳・音訳図書等の製作と貸し出しを行った。また、コロナ感染対策を講じた上で、オンラインも活用し点訳・音訳・デイジー編集奉仕員の養成を行った。

○「点字即時情報ネットワークシステム」や「視覚障がい者情報総合ネットワークシステム サピエ」を活用し、視覚障がい者向けの各種情報の配信サービスを行った。

○「点字広報ふくしま」や「愛盲時報」などの定期刊行物の配信サービスを行った。

○本協会HPを活用し各種の情報提供を行い、あわせて本協会の活動の様子を紹介する機関誌を11月に発行した。

### (2) 視覚障がい者の社会参加を支援する各種研修会に関する事業

○福島県視覚障がい者生活支援センター（以下、センターと略す）等で、職業自立講習会、文学講座、生け花教室、茶道教室、ブラインドメイク体験会など、生活技能向上ならびに自立のための各種研修会を実施した。

○視覚障がい者の外出に欠かせない、同行援護従業者養成研修を会津若松市で9月（受講者10名）、福島市で10月（受講者11名）実施した。

### (3) 視覚障がい者の情報技術の習得及び活用に関する事業

○県から委託を受けて、視覚障がい者ICT教室を12月に図書館で実施し、午前・午後5名ずつの入れ替え制で合計10名が参加した。

○福島県共同募金会からの補助金を受けて、視覚障がい者iPad教室を10月に郡山市で実施し6名が参加した。合わせて、視覚障がい者ICT訪問指導を希望する県内の視覚障がい者7名にのべ11回実施した。

また、センターを会場に電話や来所によるICT教室を15回実施し、のべ27名が来所した。

### (4) 視覚障がい者の自立を促進するための生活相談及び生

### 活用具の活用に関する事業

- センターの運営を通して、生活相談をはじめ日常生活用具等の展示、紹介及び申請の助言、原発事故や津波被害等で避難している視覚障がい者への生活相談を行った。
- 福島県ロービジョンネットワーク相談窓口としての相談事業や、福島県盲ろう者友の会などの他団体とも連携して、幅広く相談を行った。
- 県障がい者総合福祉センター主催の「見えづらさの相談会」に7回参加し、来館者のべ33名の相談に応じた。
- 視覚障がい者の健康管理に寄与するため、音声線量計の普及に取り組んだ。

### (5) 視覚障がい者の文化・スポーツの振興に関する事業

- 図書館やセンターの施設をサウンドテーブルテニスサークルや、ICT交流サロン、対面朗読などの文化・スポーツ活動に広く提供した。
- センターを、県障がい者総合体育大会のサウンドテーブルテニス競技の会場として提供し、運営役員としても協力した。

### (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

※ ( ) 内は、会議や研修への出席者名

- (社福)日本視覚障害者団体連合をはじめ、関係団体、ボランティア団体の会合へ積極的に参加し連携を図った(会務報告 参照)。
- 地方公共団体を含む各種福祉関連会議への出席や、障がい者施策に関する調査研究に積極的に協力し福祉の向上に努めた。

県北方部では、9月 会員により街歩き総点検を実施し、福島市都市政策部 交通政策課に意見を述べバリアフリー基本構想に反映(武藤 ほか)。

県中方部では、4月、8月、11月 郡山総合都市交通戦略会議(川崎)、8月 県ユニバーサルデザイン検討会議(佐藤 功)、10月 障がい者団体との意見交換会(川崎)、11月 ユニバーサルデザイン検証専門委員会(川崎)

いわき方部では、5月、10月、3月 いわき市自立支援協議会(会員)。9月、10月 いわき市土木課を訪問し誘導ブロックについての意見交換会。

会津方部では、11月 点訳サークル「ひよこ」の50周年記念交流会。

○学校や団体等の要請により、視覚障がい者に対する理解啓発のため、講師として会員を派遣した。

県北方部では、6月 腰の浜会館主催 点字学習指導員講習会講師（渡邊）、8月 点字図書館主催 親子点字体験教室講師（渡邊、水本）、2月 新地町社協主催 新地町小学校で出前講座講師（金子）

県中方部では、10月 田村市立船引南小学校で点字についての講師（佐久間真澄）、10月 インクルーシブ教育の問題点と点字の変遷についての講師（佐久間真澄）

○県内における音の出る信号機（福島市）や音声誘導装置（JR船引駅前）の設置場所の選定や、機器の維持管理に協力した。また、点字ブロックの摩耗による修繕、横断歩道の白線の修繕の依頼にも対応した。

○「ラジオ チャリティーミュージックソン」へ参加し、視覚障がい者と健常者が共存できる社会作りへ協力した。

○組織強化を目的に新入会員並びに賛助会員の増加に努力し、新入会員2名、賛助会員11名を獲得した。

○各方部の自主事業

県北方部では、7月 市役所職員を講師に日常生活用具等に関する研修会。10月 ピアノ・ソプラノ歌手によるコンサート。

いわき方部では、11月 いわき美術館での「手で触れる鑑賞会」に会員15名が参加。

## 2 会務報告

注) 日にちの後の(ハイ)はハイブリッド方式、(オン)はオンライン方式での開催を示す。

○定時総会 5/29

○定時理事会 5/14、8/21、12/4、3/26

○監査 5/8、期中監査 12/4

○三役会 3/26

○文化祭 9/25

○職業自立講習会 1/22

○(社福)日本視覚障害者団体連合(以下、日視連)、東北視覚障害者団体連合(以下、東視連)関連

第75回全国視覚障害者福祉大会(名古屋大会)(会長、ほ

か) 5 / 31 ~ 6 / 1、同日 全国団体長会議 (会長)。  
日視連 全国団体長会議 (会長) 10 / 2 (オン)、2 / 15 (オン)、

第68回全国視覚障害女性研修大会 北海道・東北ブロック (福島大会) (会長、渡邊 ほか) 8 / 31 (ハイ)  
日視連女性協 全国代表者会議 (渡邊) 8 / 31 (福島ハイ)、3月 (東京)  
日視連女性協 常任委員会 (渡邊) 6月 (東京)

第68回全国視覚障害青年研修大会 (福岡県大会) (水本 ほか) 9 / 18 ~ 19 (ハイ)、同日 代表者会議、全国委員会 (水本)  
日視連青年協 全国委員会 (水本) 4 / 17 (オン)、7 / 12 (オン)、1 / 15 (オン)  
日視連青年協 社会対策研修会 (水本) 7 / 10 (オン)、11 / 23 (オン)  
日視連青年協 代表者会議 (水本) 2 / 19 (オン)  
日視連青年協 常任委員会 (水本) 年6回 (オン)

日視連スポーツ協 幹事会 (水本) 5 / 7 (神奈川県)  
日視連スポーツ協 代表者会議 (水本) 7 / 30 (神奈川県)  
日視連スポーツ協 ブラインドスポーツ座談会 (水本) 3 / 11 (オン)  
日視連スポーツ協 常任委員会 (水本) 年6回 (オン)

日視連弱視部会 総会、常任委員会 (渡邊) 4月、7月 (オン)  
日視連弱視部会 意見交換会 (渡邊) 6月、8月、10月、12月 (オン)

東視連役員会 (会長 ほか) 4 / 23 (ハイ)、7 / 23 (オン)、11 / 6 (オン)、3 / 4 (岩手県)  
東視連代議員総会 (川崎 ほか) 11 / 6 (オン)

#### ○福島県関連

社会参加推進協議会評議員会 (会長) 5 / 23、3 / 17 (渡利)  
自立支援協議会障がい者差別解消支援部会 (川崎) 11 /

18

障がい者施策推進協議会（渡邊） 3月（書面表決）  
身体障がい者福祉大会（会長） 10/26（二本松市）

○福島県文化・スポーツ関連

障がい者スポーツ協会評議員会（会長） 3/22（書面表決）

○その他

見えにくい・見えない人のための福祉機器展 8/7  
（コラッセふくしま）

移動円滑化評価会議 東北分科会（会長） 8/19  
（オン）、1/24（オン）

音の出る信号機贈呈式（会長） 11/21（県庁）

点字カレンダー贈呈式（会長） 12/5（県庁）

ユニバーサルデザイン検討委員会（会長） 1/23  
（市民会館）